

株式会社シード

2027年3月期第1四半期 連結決算説明会

2026年8月25日
(証券コード:7743)

まだみぬ、世界は、美しい



目次

- 1. 2027年3月期第1四半期 決算概要
- 2. 2027年3月期第1四半期 トピックス
- 3. 参考資料

目次

- 1. 2027年3月期第1四半期 決算概要
- 2. 2027年3月期第1四半期 トピックス
- 3. 参考資料

2027年3月期第1四半期 サマリー(連結)

売上高

8,848百万円

前年同期比 +3.5%

売上総利益

4,151百万円

前年同期比 +7.9%

営業利益

618百万円

前年同期比 △2.0%

乱視用・遠近両用レンズの販売が回復したことに加え、AirGradeシリーズの拡販や中国越境ECの売上伸長により、売上高及び売上総利益は増加。一方で、治験実施に伴う研究開発費の増加に加えて、人員拡充や処遇改善に伴う人件費の増加等により、販売費及び一般管理費が増加したため、営業利益は前年同期比で減少。

2027年3月期第1四半期 連結決算ハイライト

連結

[百万円]
百万円未満切捨て

	2025/3期 1Q	2026/3期 1Q	2027/3期 1Q	前年同期 増減額	前年同期比	2027/3期 通期見通し (2026年5月11日公表)	進捗率
売上高	8,277	8,547	8,848	+301	+3.5%	37,000	23.9%
売上総利益	3,759	3,848	4,151	+303	+7.9%	-	-
(売上総利益率 ／粗利率)	(45.4%)	(45.0%)	(46.9%)	-	(+1.9%)	-	-
営業利益	410	630	618	△12	△2.0%	2,200	28.1%
(営業利益率)	(5.0%)	(7.4%)	(7.0%)	-	(△0.4%)	(5.9%)	-
経常利益	507	608	517	△90	△14.9%	1,750	29.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	359	381	336	△45	△11.9%	1,350	24.9%

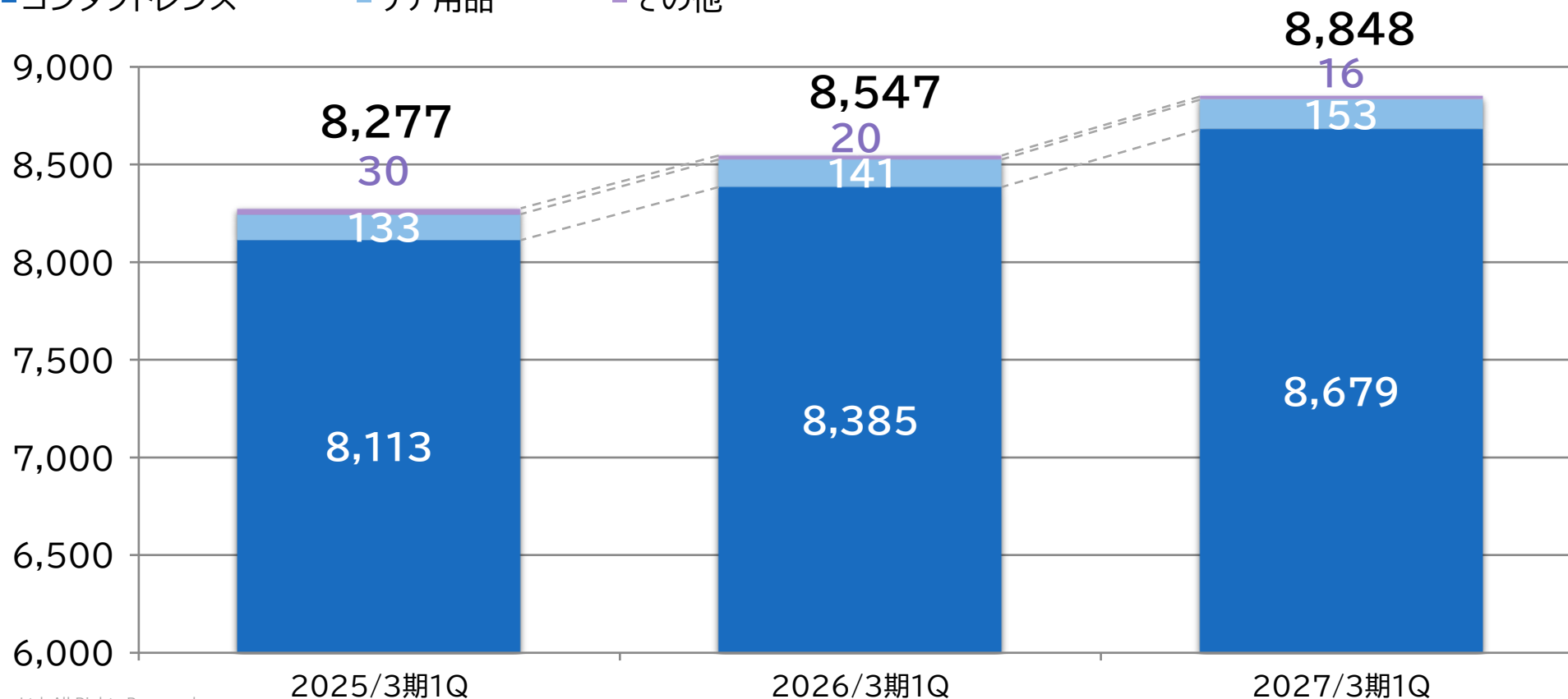
事業別売上高

コンタクトレンズ事業において、主力の1dayPureシリーズについては、乱視用や遠近両用レンズが復調したものの、単焦点レンズは競合商品との価格競争の影響を受けたため、前年と同水準で推移。
一方で、AirGradeシリーズの売上は伸長。
コンタクトレンズ事業全体として、前年同期比294百万円の増加。

※コンタクトレンズ:光学器械含む ※その他:眼内レンズ・眼鏡事業含む
■コンタクトレンズ ■ケア用品 ■その他

連結

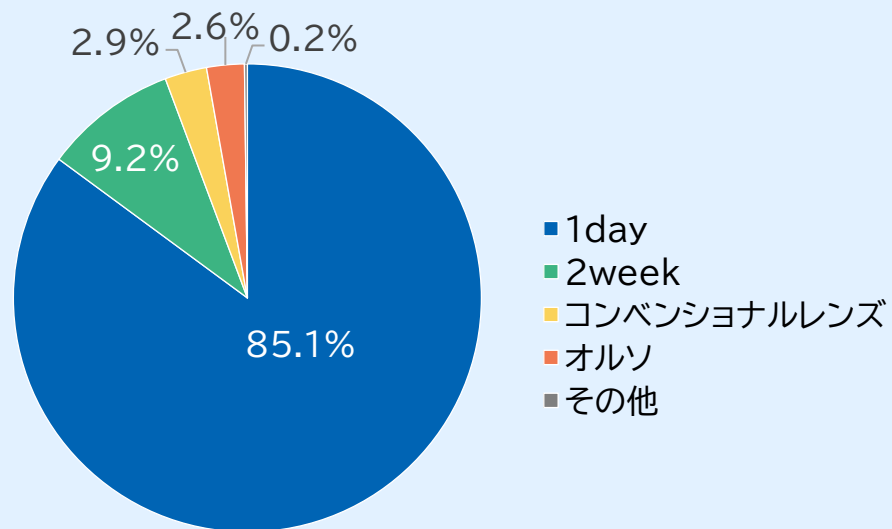
[百万円]
百万円未満切捨て



コンタクトレンズ売上高

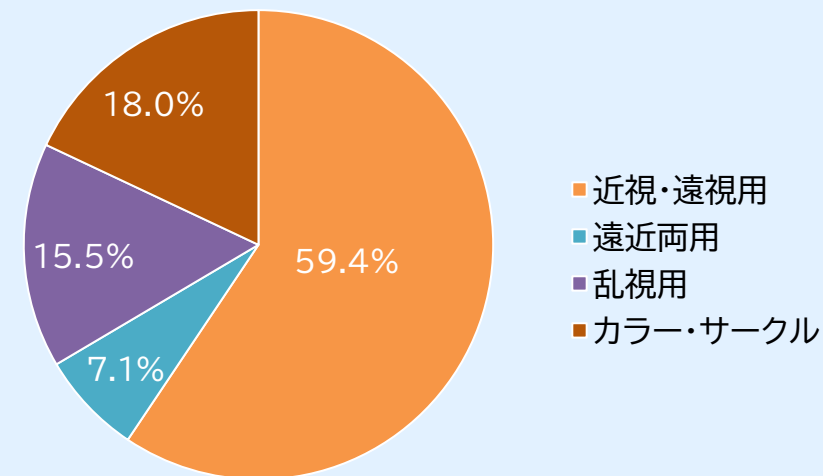
単体

2027年3月期1Q 売上高CLカテゴリー比率



単体

2027年3月期1Q 売上高1dayカテゴリー比率



※カラー・サークルの乱視用及び遠近両用はすべて「カラー・サークル」カテゴリーに含めて集計

商品別対前年同期比(単体卸売ベース)

1day	ワンデーピュアシリーズ	同水準
	エアグレード 1dayシリーズ	37.8%増
2week	2ウィークピュアシリーズ	4.1%増
	エアグレード 2weekシリーズ	92.0%増

※エアグレード 1day乱視用: 2025年11月27日発売 / 2week乱視用: 2026年2月5日発売

1dayカテゴリー別対前年同期比(単体卸売ベース)

近視・遠視用	2.8%減	遠近両用	28.6%増
乱視用	15.3%増	カラー・サークル	2.8%増

※2024年2Qより乱視用において納期遅延が発生→2025年5月28日をもって全て解消

販管費の状況

連結

[百万円]
百万円未満切捨て

	人件費	広告 宣伝費	研究 開発費	物流 関連費	その他	
2026年3月期 1Q 販管費実績	1,117	270	516	496	816	3,217
	+58 (105%)	+32 (112%)	+120 (123%)	△16 (97%)	+122 (115%)	+315 (110%)
2027年3月期 1Q 販管費実績	1,175	302	637	479	938	3,533

- 人件費 : 人員増加、賃金・待遇の改善により、前年同期比で増加
- 広告宣伝費: 国内キャンペーン・イベント等の広告活動の拡大により、前年同期比で増加
- 研究開発費: 近視進行抑制をはじめとする複数の治験やスマートコンタクトレンズの開発費用等の影響により、前年同期比で増加
- 物流関連費: 国内の注文・発送形態の見直し及び海外発送の効率化等により、前年同期比で減少
- その他 : 新商品発売等に伴うトライアルレンズ費用や組織再編に伴うアドバイザー費用等が発生したため、前年同期比で増加

利益増減分析

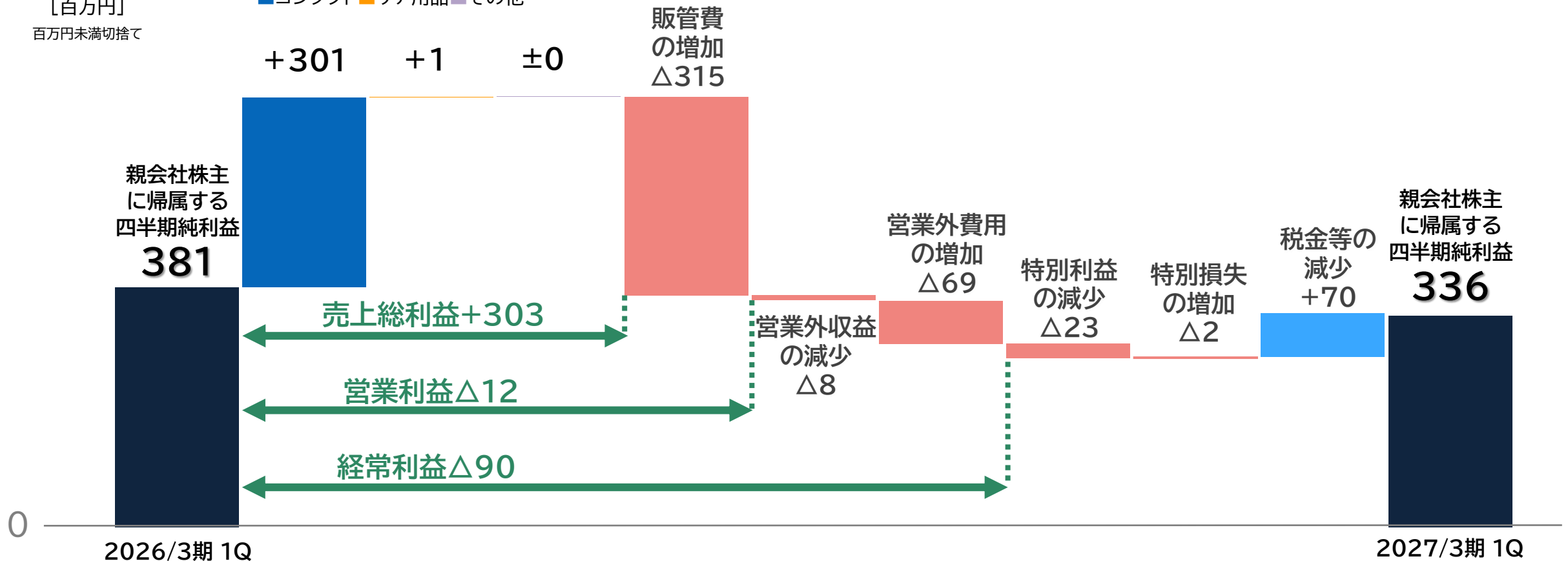
乱視用・遠近両用等のスペシャリティレンズやAirGradeシリーズの拡販により売上総利益は増加したものの、人件費や研究開発費の増加により、営業利益は12百万円の減少。

連結

[百万円]

百万円未満切捨て

※コンタクトレンズ:光学器械含む
※その他:眼内レンズ・眼鏡事業含む
■コンタクト ■ケア用品 ■その他



財務状況推移

連結

[百万円]

百万円未満切捨て

	2026/3月期 期末		2027/3月期 1Q		前期末比較
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	
資産の部 計	62,579	100.0	66,133	100.0	+3,554
流動資産	21,815	34.9	23,587	35.7	+1,771
内 現預金	4,211	6.7	5,851	8.8	+1,640
商品及び製品	7,642	12.2	8,529	12.9	+887
固定資産	40,763	65.1	42,546	64.3	+1,782
負債の部 計	42,971	68.7	47,052	71.1	+4,080
流動負債	27,658	44.2	22,503	34.0	△ 5,155
固定負債	15,312	24.4	24,548	37.1	+9,235
純資産の部 計	19,608	31.3	19,081	28.9	△ 526
負債・純資産 計	62,579	100.0	66,133	100.0	+3,554

【商品及び製品 +887】
商品:新商品初期在庫の仕入
製品:在庫状況の改善

【有形固定資産 +1,797】
4号棟の製造設備導入

【未払金 △6,791】
4号棟建屋支払の決済

【長期借入金 +7,223】
4号棟建屋建設借入実施

(注)2027年3月期第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2026年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

キャッシュ・フロー | 主要項目

連結

[百万円]
百万円未満切捨て

	2026/3期 1Q	2027/3期 1Q	前期比較
営業活動によるC・F	598	861	+262
内 税金等調整前当期純利益	631	515	△ 116
減価償却費	755	1,069	+313
棚卸資産の増減額(△は増加)	△ 421	△ 1,154	△ 732
投資活動によるC・F	△ 741	△ 7,009	△ 6,267
有形固定資産取得	△ 276	△ 6,876	△ 6,600
無形固定資産の取得	△ 16	△ 80	△ 63
財務活動によるC・F	△ 970	7,674	+8,645
内 短期借入金の純増減額	300	790	+490
長期借入金の借入	0	8,575	+8,575
長期借入金の返済	△ 466	△ 587	△ 120
リース債務の返済による支出	△ 363	△ 467	△ 103
現金及び現金同等物 期末残高	6,058	5,750	△ 307

【棚卸資産 △732】
安定供給に向けた在庫積み増しによる改善
【減価償却費 +313】
4号棟の投資関連の償却費用が発生

【有形固定資産の取得 △6,600】
4号棟建屋支払の決済

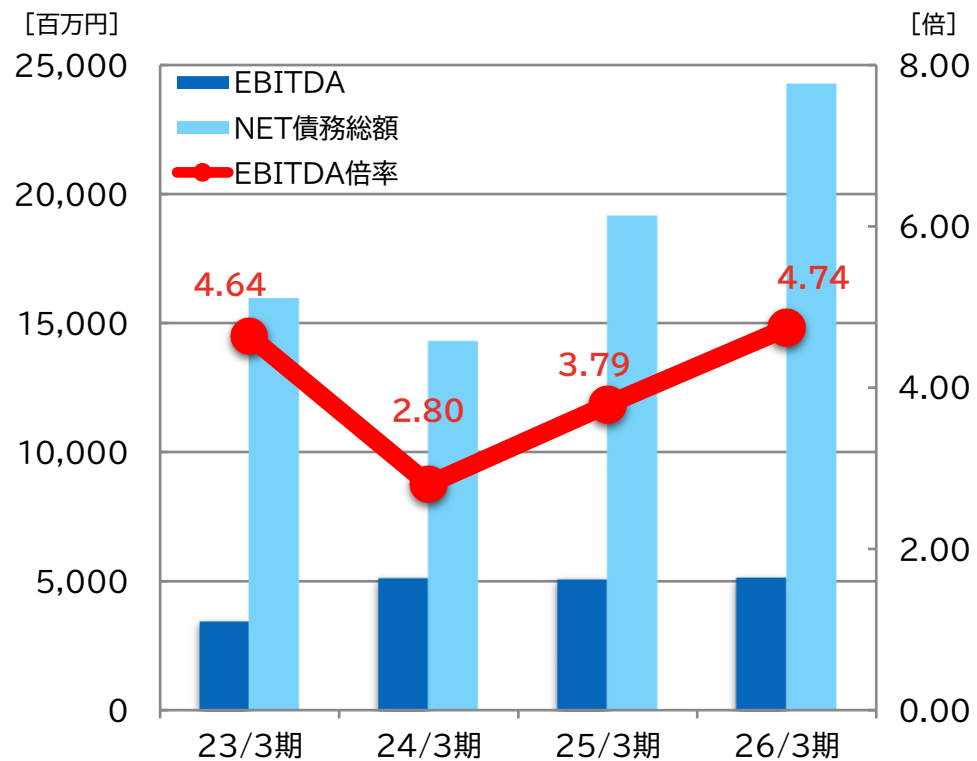
【長期借入金の借入 +8,575】
4号棟建屋建設費支払

キャッシュ・フロー：関連指標推移

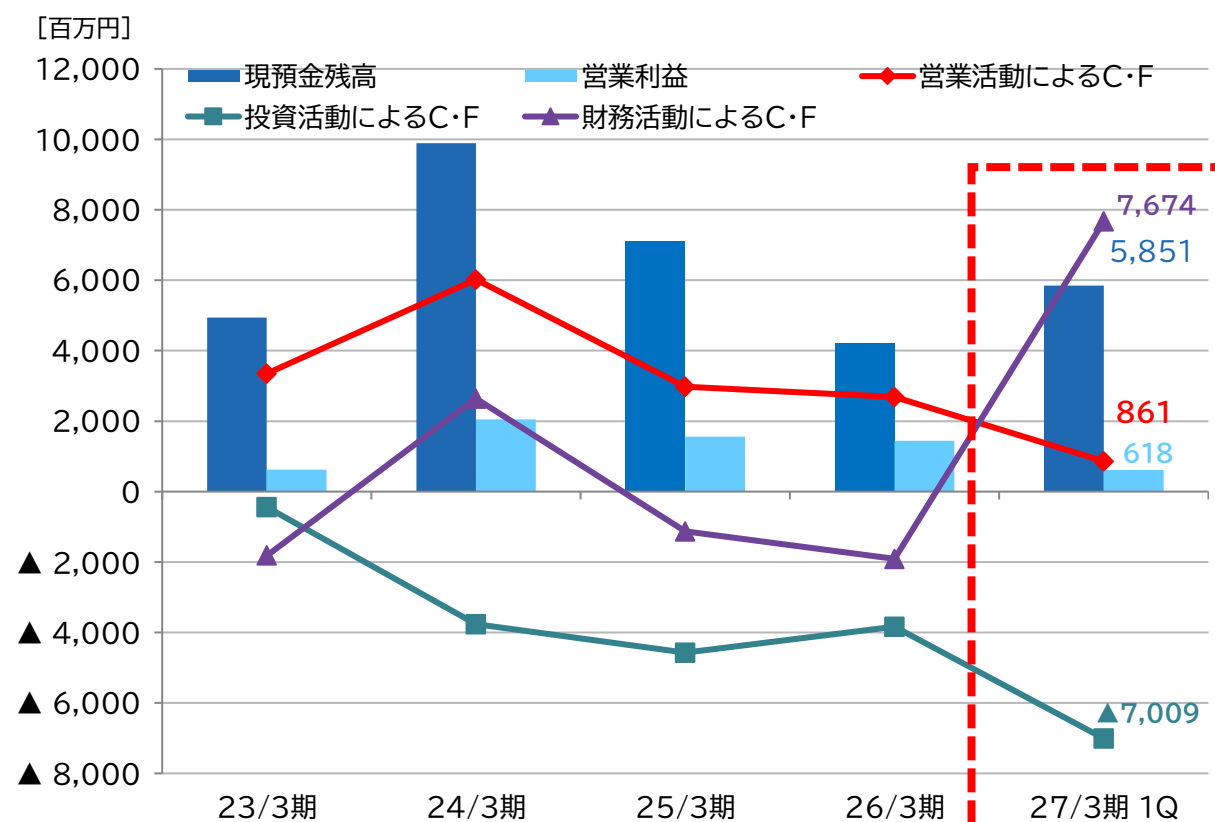
連結 [百万円] 百万円未満切捨て

	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
EBITDA	3,438	5,102	5,055	5,114
EBITDAマージン EBITDA÷売上高	11.2%	15.8%	15.2%	15.1%

2026/3期 1Q	2027/3期 1Q
1,478	1,777
17.3%	20.1%



◇EBITDA=経常利益+減価償却費+のれん償却+支払利息
◇NET債務総額=有利子負債+リース債務-現預金

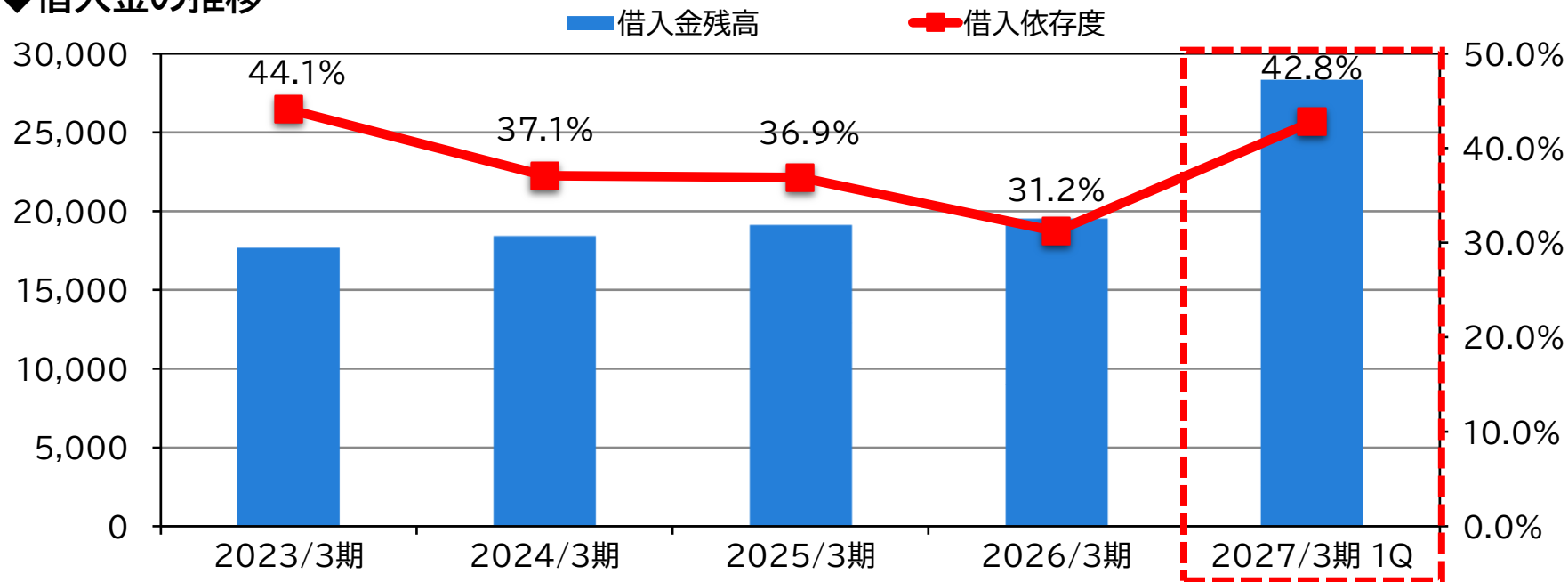


財務・株価指標 | 推移

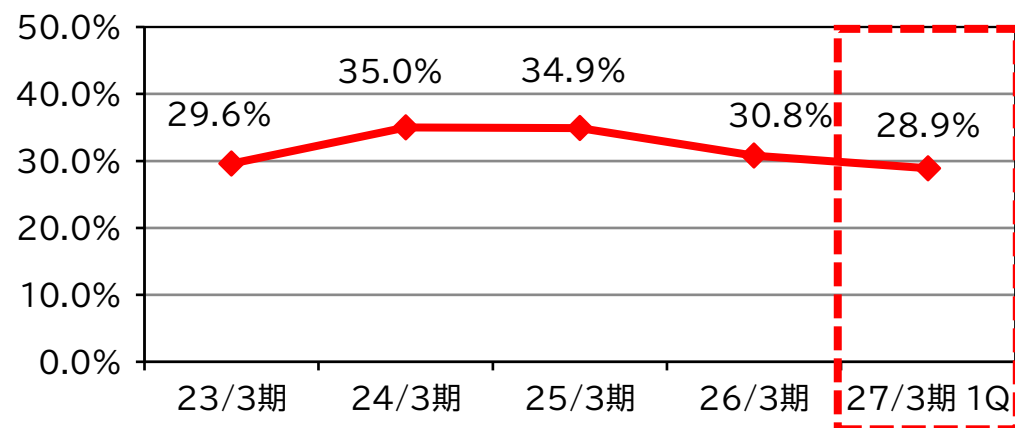
連結

[百万円]

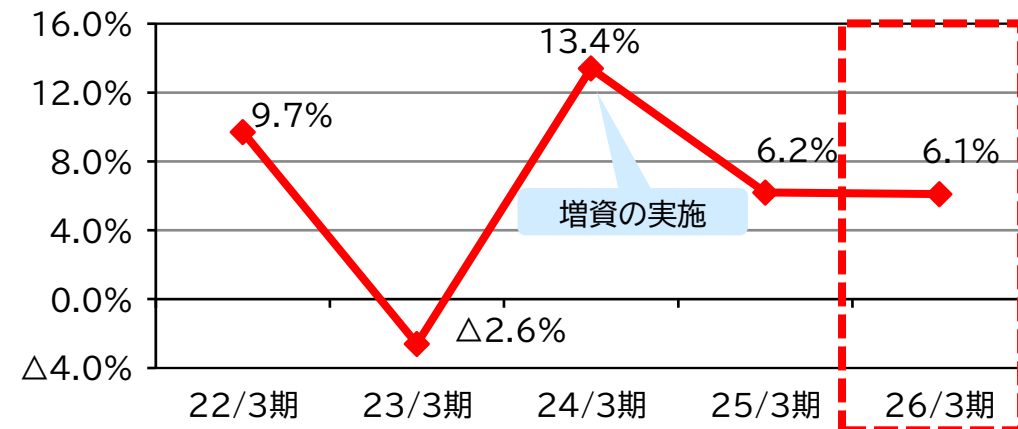
◆借入金の推移



◆自己資本比率



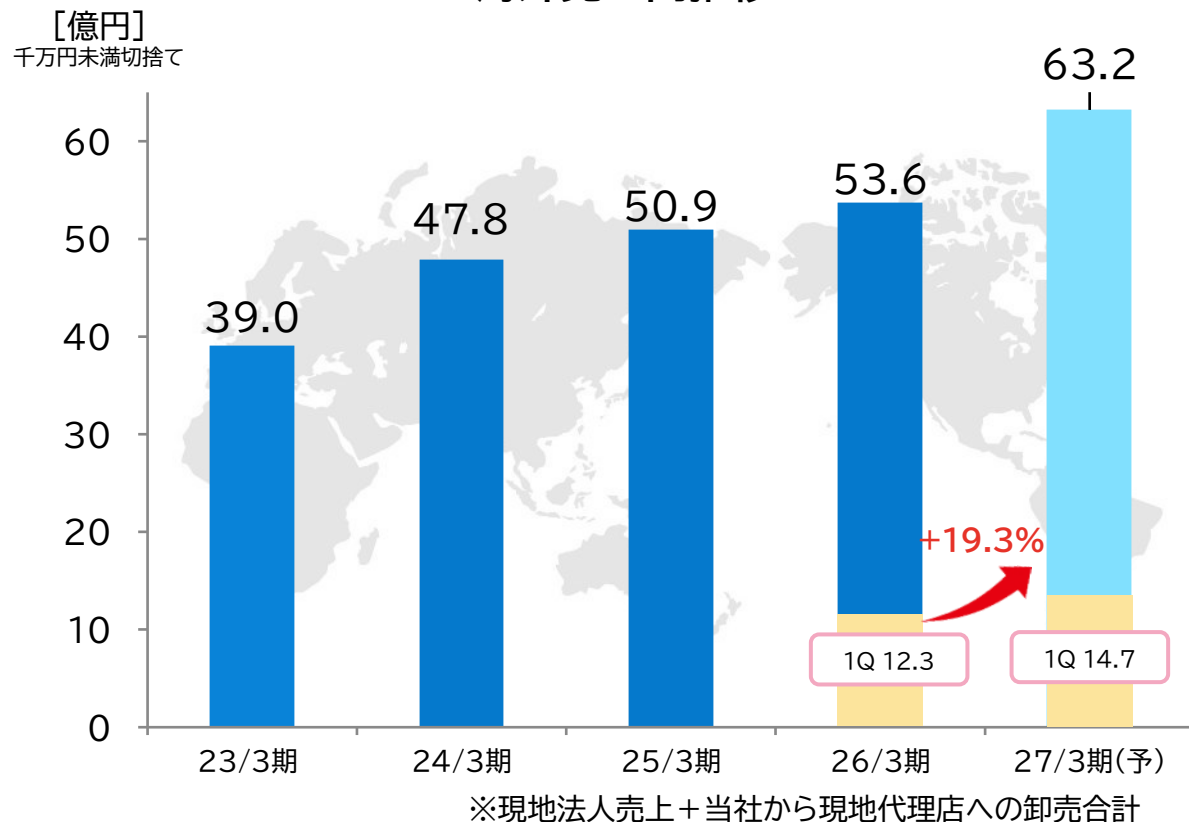
◆自己資本当期純利益率(ROE)



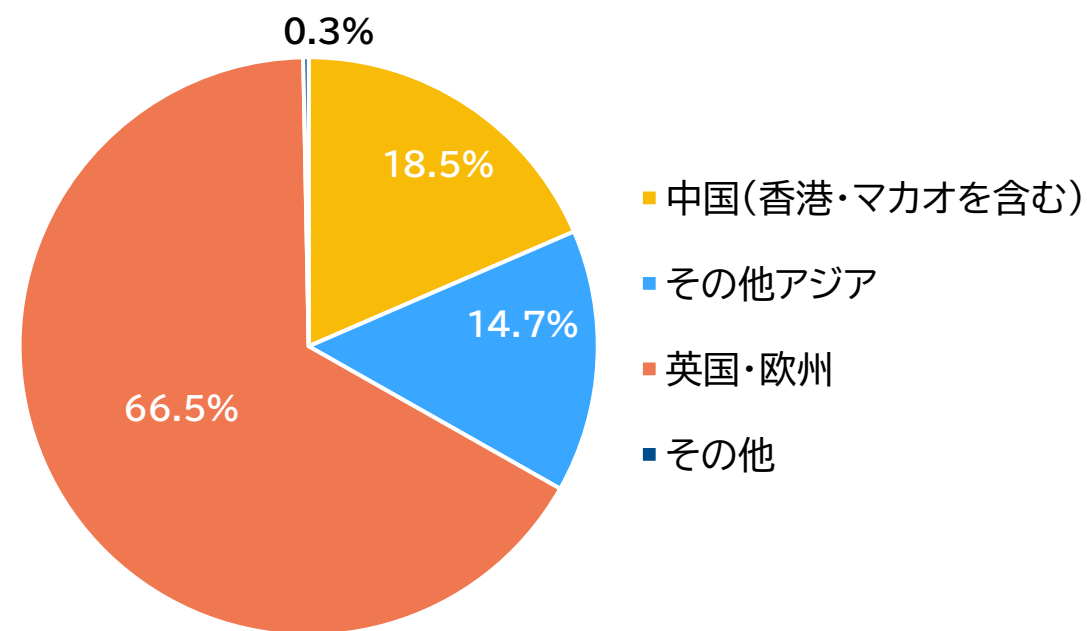
国際展開

東南アジアやインド等、経済成長が期待される国や地域でコンタクトレンズの購入層が拡大しており、市場の成長が期待されている。

海外売上高推移



海外売上高構成比(2027年3月期 1Q)



オルソケラトロジーレンズ

オルソケラトロジーレンズ市場は拡大。
適応拡大に向けた治験の推進と国内外での販売網強化により、更なる成長機会を創出。

寝ている間に視力矯正ができる オルソケラトロジーレンズ

寝る時にレンズを装用することで角膜形状を変化させ、
起床後にレンズを外して日中は裸眼で過ごすことができる治療法

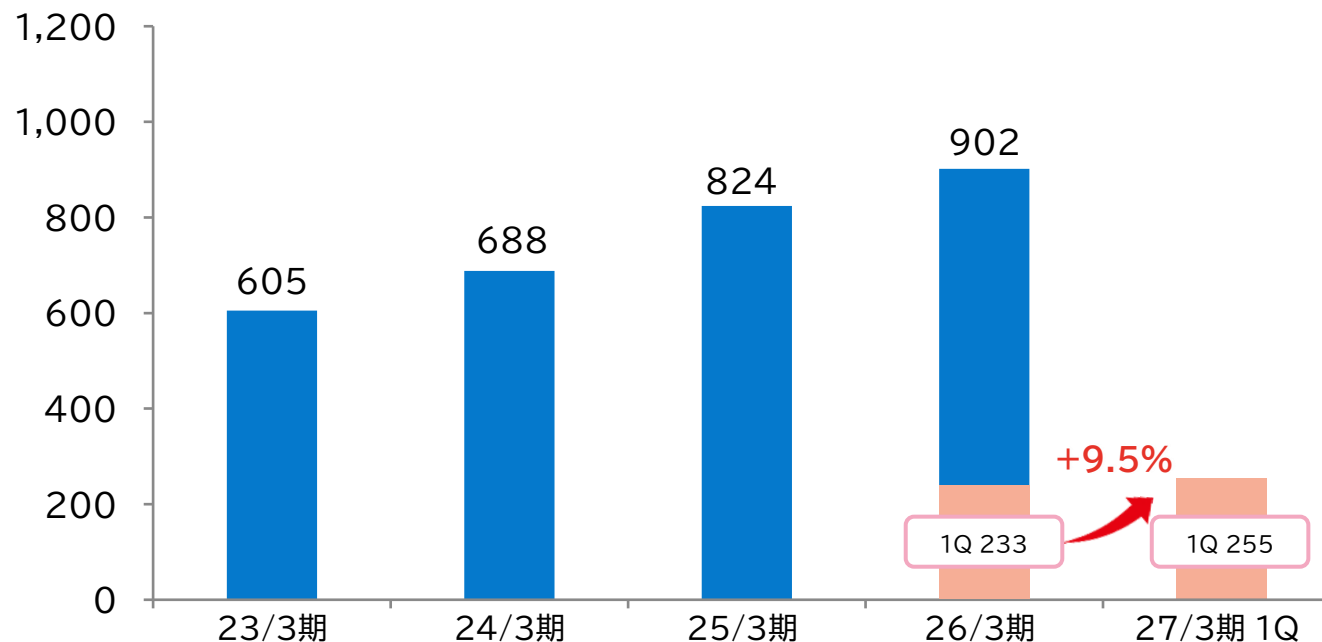
国内外の販売状況：

- 日本、東南アジア、香港、インド
- 欧州(Wöhlk社・Scotlens社製品を販売)

[百万円]
百万円未満切捨て

オルソケラトロジーレンズ売上

※定額制を含む
※卸売ベース

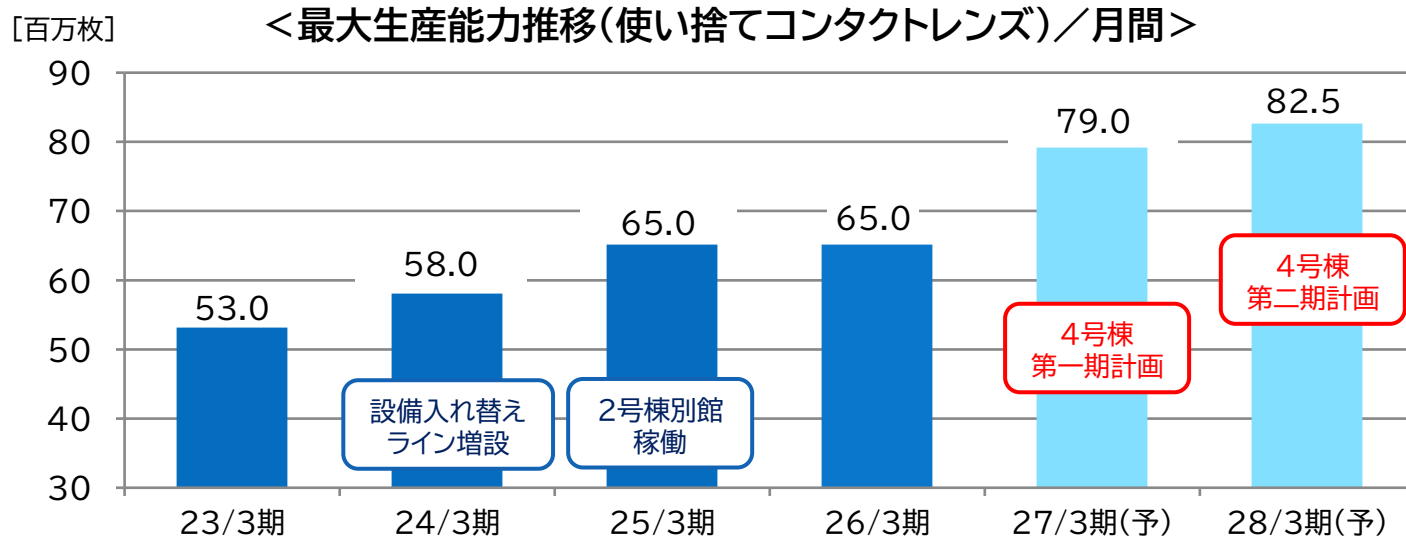


目次

- 1. 2027年3月期第1四半期 決算概要
- 2. 2027年3月期第1四半期 トピックス
- 3. 参考資料

2027年3月期第1四半期トピックス 鴻巣研究所 生産力の増強

鴻巣研究所4号棟 2026年1月に竣工
第二期計画が完了することにより、年間最大生産能力は【9.9億枚】に増加



鴻巣研究所全体の鳥瞰図

時期	計画内容	最大生産能力／月間※	進捗状況
2027年3月期	4号棟 第一期	6,500万枚 →7,900万枚	2026年3月より順次稼働
2028年3月期	4号棟 第二期	7,900万枚 →8,250万枚	着工:2026年7月 2027年4月より順次稼働予定

2027年3月期第1四半期トピックス 鴻巣研究所4号棟第二期計画の一部変更 (2026年7月13日公表)

	変更前	変更後
投資予定額	115.9億円	75.5億円
建設期間	着工予定:2026年7月 稼働開始予定:2027年4月	
生産能力	月産1,050万枚規模	月産350万枚規模



鴻巣研究所では、国内外でのコンタクトレンズの需要拡大に対応するため、安定した商品供給と今後の成長戦略の実現に向けて、設備の更新や生産ラインの増設を進めております。

第二期計画では、月間最大生産枚数を第一期計画完了時点の7,900万枚から8,950万枚へと拡大する予定でしたが、生産能力増強計画の進捗状況や設備投資の効率性を総合的に検討した結果、投資内容を最適化することといたしました。その結果、月間最大生産枚数は8,250万枚とする計画とし、今後の需要拡大に対応可能な供給体制を引き続き確保してまいります。また、国内外の需要動向を見極めながら、さらなる供給能力向上に向けた施策についても、柔軟かつ機動的に推進してまいります。

2027年3月期第1四半期トピックス 「ベルミー」 乱視用レンズ新発売

2026年8月20日

カラーコンタクトレンズ「ベルミー」から1日使い捨て乱視用2色が新発売

“なりたいわたしを選べる”カラーコンタクトレンズ「ベルミー」から、2026年8月20日(木)に1日使い捨て乱視用カラーコンタクトレンズ「ベルミーTORIC」を新発売しました。

今回、新たに発売した乱視用カラーは、ナチュラルに盛れる王道ブラウンレンズ「Belle Brown(ベルブラウン)」と、うるうる涙感たっぷりの透明感ある瞳を演出する「Tear Brown(ティアブラウン)」の2色です。



NEW

Belleme TORIC
ベルミー トーリック by Eye coffret



販売名: SPワンデー H-UVC 承認番号: 22900BZX00423000

<ご使用上の注意>コンタクトレンズは高度管理医療機器です。必ず眼科医の検査・処方を受けてお求めください。
ご使用前には必ず添付文書をよく読み、正しくお使いください。

2027年3月期第1四半期トピックス 「えるぼし認定(2段階目)」を取得

女性の活躍推進に関する取り組みが優良な企業として評価され、2026年6月4日付で厚生労働大臣が認定する「えるぼし認定(2段階目)」を取得しました。

「えるぼし認定」は、一般事業主行動計画の策定・届出を行った企業のうち、女性の活躍推進に関する取り組みの実施状況が優良であるなどの一定の要件を満たすことにより厚生労働大臣から認定されます。当社は、5つの評価項目のうち「採用」、「労働時間等の働き方」、「管理職比率」、「多様なキャリアコース」に関する取り組みが評価され、「えるぼし認定(2段階目)」を取得しました。

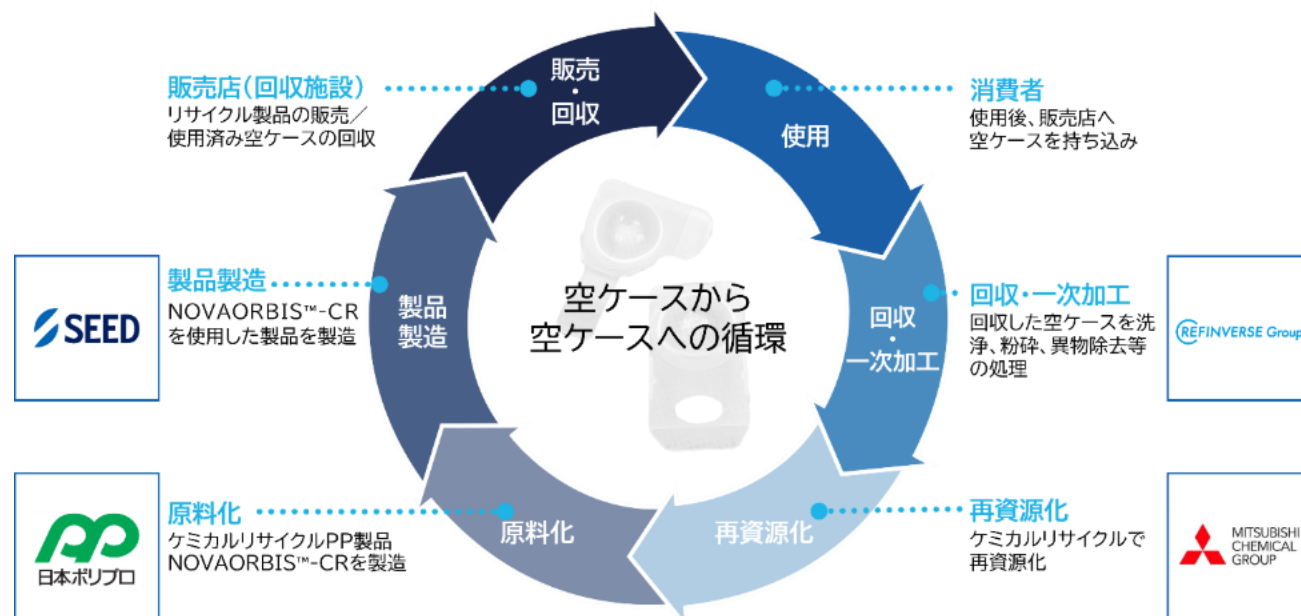


2027年3月期第1四半期トピックス BLUE SEED PROJECT

コンタクトレンズのブリスター(空ケース)のケミカルリサイクル実証実験を開始
～使用済み空ケースを再資源化し、新たな空ケースに生まれ変わらせる循環型モデルの構築へ～

当社、株式会社リファインバースグループ(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:越智 晶)、三菱ケミカル株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:筑本 学)、日本ポリプロ株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:飯島 要)は、使い捨てコンタクトレンズのブリスター(以下「空ケース」)を原料とするケミカルリサイクル※の実証実験を開始します。消費者から回収した使用済み空ケースを新たな空ケースに生まれ変わらせる循環型モデルの構築を目指します。

※ケミカルリサイクル:使用済みプラスチックを分解し、油・ガス・モノマーなどの原料レベルにまで戻すことで、新たなプラスチック製品として再利用できるようにするリサイクル手法。



循環フロー図(イメージ)

2027年3月期第1四半期 今後の成長に向けた取り組み

Personalization



お客さま一人ひとりに合わせた製品の開発
乱視遠近、カスタムオルソ・スクレラルレンズ



シリコンハイドロゲルレンズ

シリコンハイドロゲルレンズの開発



国産初の使い捨てレンズ



遠近両用



乱視用



スマホ眼用

スペシャリティレンズの開発

Pureシリーズについて
リブランディングを実施



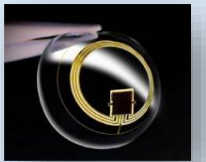
近視進行抑制

近視進行抑制分野の用途拡大を目指した治験を実施
(シード1dayPure EDOF・オルソケラトロジー)



シリコンハイドロゲルレンズの開発

次世代の高酸素透過性レンズ承認取得
早期上市に向けて準備中



スマートコンタクトレンズの開発

- ・トリガーフィッシュに続く、新たなデバイスを内蔵したスマートコンタクトレンズの開発
- ・革新的情報通信技術(Beyond 5G(6G))のNICT事業に採択
- ・コンタクトレンズへの電子部品等実装技術の標準化及び、大規模集積回路開発に成功、プラットフォーム公開、特設サイト開設



新分野への進出

内視鏡フード、リング状デバイス等のコンタクトレンズの
技術を生かした新たな分野への進出

次世代商品の開発

中期経営計画(2024年4月～2027年3月)

2024年1月12日開示 3ヶ年中期経営計画

2025年5月20日開示・2026年5月11日開示 進捗状況と今後の重点課題更新

【中期経営計画の位置付け】

- ・連結売上高500億円を達成し、世界のコンタクトレンズ市場でプレゼンスを発揮するための生産基盤の確保
(売上・業容拡大の足枷となっている商品供給力の不足を補うため、積極的な設備投資を行い、世界に伍する生産能力の整備を行う)
- ・省人化生産を実現し、競争力を維持できる生産体制の構築
- ・更なる品質の向上をすすめ、安心安全を追求
- ・コーポレートブランドの再構築による企業価値の向上
- ・環境経営の推進
- ・人的資源の強化を通じた事業基盤の整備

生産力を抜本的に改善する3年間となっており、大幅な収益改善は4号棟完成(2027年3月期)以降となります。この中期経営計画期間中における収益力の改善は、2号棟別館や4号棟第一期計画の稼働や歩留りの着実な改善等によるものととどまりますが、将来の成長に対するコストをこの期間にかけることにより、中長期的な当社の成長へと繋がります。

2027年3月期見通し

連結

[百万円]

百万円未満切捨て

	2026年3月期	2027年3月期見通し	<参考> 前期比較	
			増減額	増減率
売上高	33,942	37,000	+3,057	+9.0%
営業利益	1,439	2,200	+760	+52.8%
(営業利益率)	4.2%	5.9%		—
経常利益	1,406	1,750	+343	+24.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,135	1,350	+214	+18.9%

- 「シード1dayPureシリーズ」の中でも、特に乱視用や遠近両用等のスペシャリティレンズの販売に引き続き注力。
- 収益の柱である「シード1dayPureシリーズ」のリブランディングを推進。既存ブランドのマーケティング戦略を改めて見直し、「国産」「32枚入り」という商品特長を活かしながら、ブランドイメージや商品価値を再構築。
- 特に中国市場において、連結会社の完全子会社化により経営の意思決定スピードを一層高め、また、国際事業本部内に中国営業部を新設し、中国国内での売上拡大を進める。また、ベトナムやマレーシア等、今後の成長が期待できる東南アジア地域での販売強化につなげる。

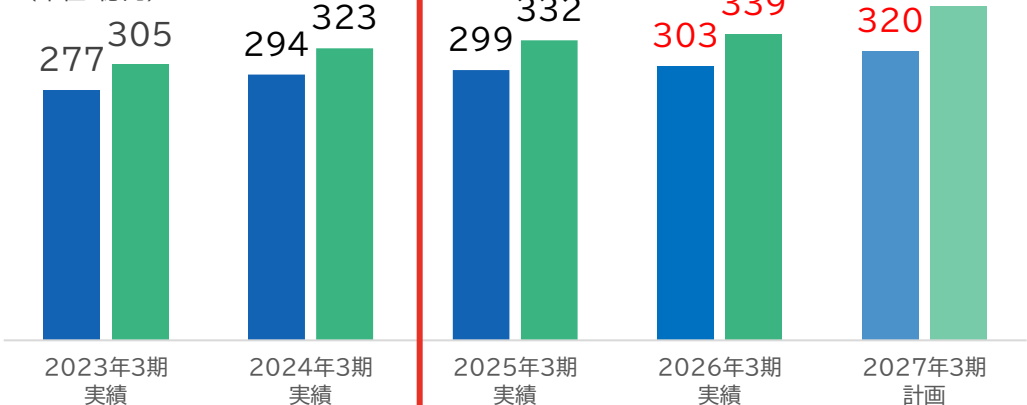
中期経営計画(2024年4月～2027年3月)財務目標

財務目標の見直し

《売上高》

(単位:億円)

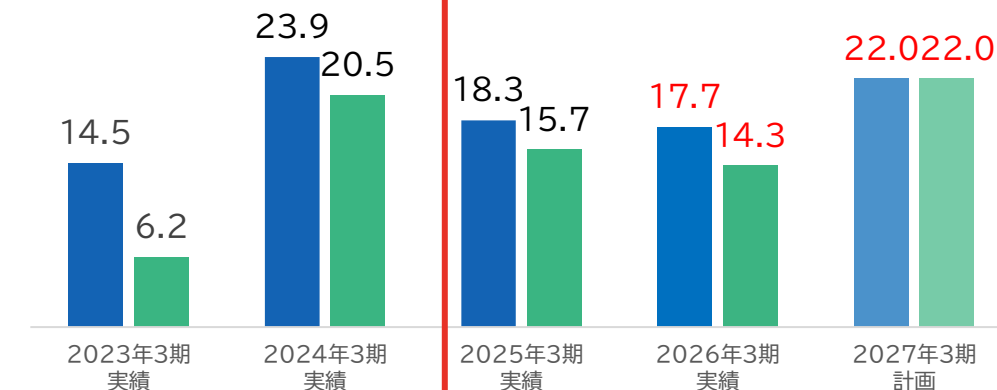
■単体 ■連結



《営業利益》

(単位:億円)

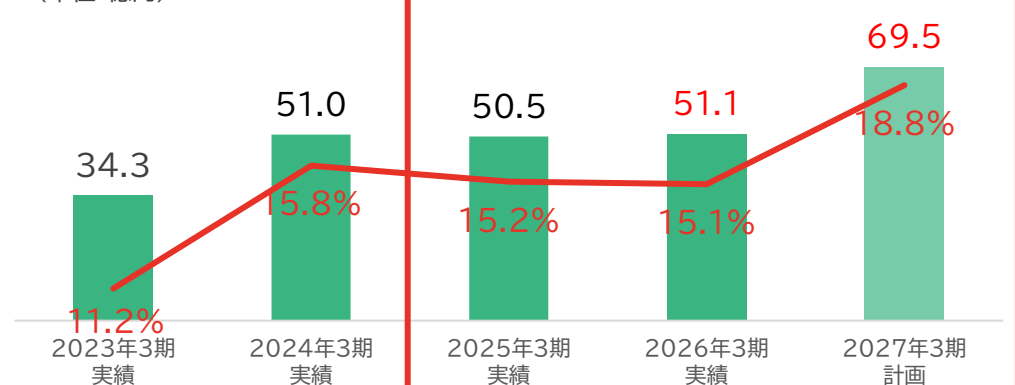
■単体 ■連結



《EBITDA》

(単位:億円)

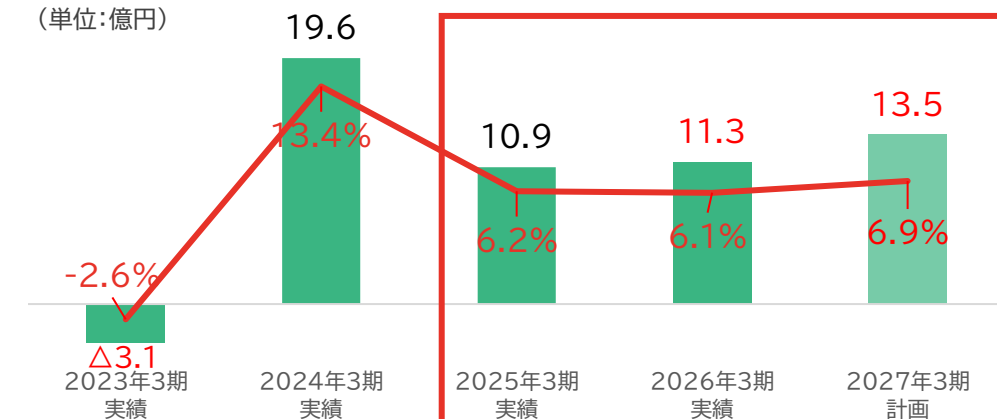
■EBITDA ■EBITDAマージン



《ROE》

(単位:億円)

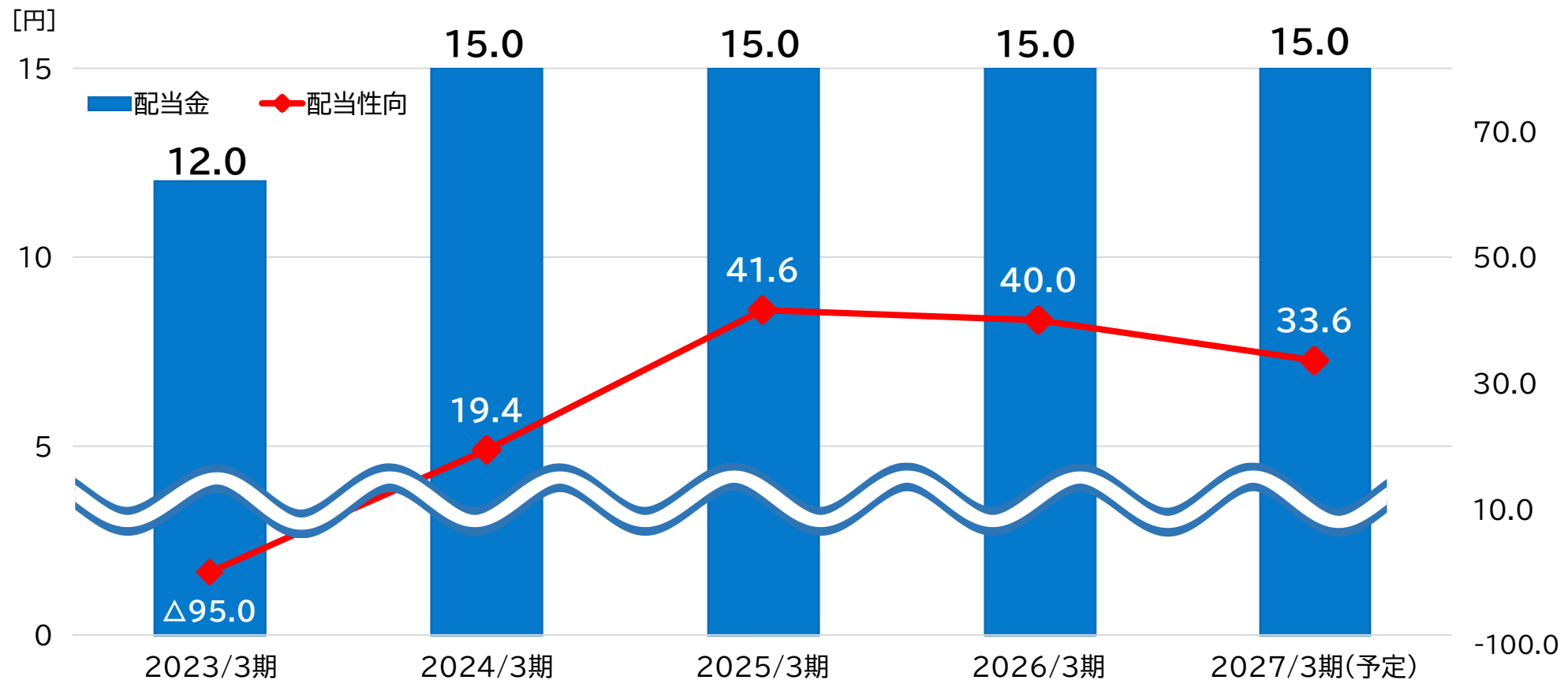
■親会社に帰属する当期純利益 ■ROE



- 2027年3月期は連結売上高 **370**億円とし、連結売上高 500億円を達成するための足場固めを行う
- 利益構造の改善を継続し、営業利益ベースでの増益を実現する
- キャッシュ創出力を強化し、EBITDA **69.5**億円を目指す
- 利益効率を高め、ROE **6.9**%(2027年3月期)を目指す

株主還元

適切な配当施策の実施のため、配当性向30～40%を目標とした配当の継続を目指す



今後の成長戦略と、株主への安定的な利益還元を継続していくこと等を総合的に勘案

1株あたり年間配当金額
1株につき 15円

配当利回り: 2.9%

※2026年6月30日 株価(終値)512 円

目次

- 1. 2027年3月期第1四半期 決算概要
- 2. 2027年3月期第1四半期 トピックス
- 3. 参考資料

参考資料:会社概要

本社	東京都文京区本郷2-40-2
設立	1957年10月9日(昭和32年)
上場	1989年12月(平成元年12月)
証券コード	7743 東京証券取引所スタンダード市場
資本金	3,532百万円
従業員	1,489名(連結) ※2026年3月末現在、アルバイト・契約社員を含む
営業所	8(札幌・東京・名古屋・大阪・福岡 他)、その他駐在11(新潟・静岡 他)※2026年3月末現在
工場・研究所	研究所:シード鴻巣研究所(埼玉県鴻巣市)

1957年10月	会社設立 商号「株東京コンタクトレンズ研究所」	2017年 3月	東京証券取引所市場第一部に指定
1985年11月	ブランド名をマイコンから「シード(SEED)」に変更	2017年 9月	鴻巣研究所3号棟竣工
1987年 2月	商号変更「株シード」	2018年 4月	保育・児童施設 ふくろうの森 開園
1989年12月	社団法人日本証券業協会に株式の店頭登録	2020年11月	鴻巣研究所 製品・資材倉庫棟 新設
2007年 7月	鴻巣研究所を竣工	2022年 4月	東京証券取引所プライム市場へ移行
2011年 1月	鴻巣研究所 ISO13485取得、CEマーキング指令適合	2024年 4月	シード鴻巣研究所2号棟別館竣工
2014年 3月	東京証券取引所市場第二部に市場変更	2024年 5月	シード本社ビル竣工
2014年 8月	鴻巣研究所2号棟竣工	2026年 1月	シード鴻巣研究所4号棟竣工
2016年 6月	研究棟竣工	2026年 3月	東京証券取引所スタンダード市場に移行



「東京コンタクトレンズ研究所」当時の社屋



シード本社ビル



鴻巣研究所

当社は、多様な「みえる」喜びを創造できる社会
の実現を目指しています



「みえる」の先にある喜びと感動の創造を目指し、高品質な製品の提供と安定供給を支える
生産基盤・研究開発力を強みに、持続的な成長と企業価値向上に取り組んでいます。

参考資料:取扱商品

コンタクトレンズ事業

1day・2weekからハードコンタクトレンズまで、広範囲の製品展開で細分化するニーズにきめ細かく対応しています

●国産 Pureシリーズ

カテゴリ

単焦点

乱視用

遠近両用

スマホ眼用

遠近両用

1day



シード1dayPure
うるおいプラス



シード1dayPure
うるおいプラス乱視用



シード1dayPure
マルチステージ



シード1dayPure
View Support



シード1dayPure
EDOf

2week



シード2weekPure
うるおいプラス



シード2weekPure
うるおいプラス乱視用



シード2weekPure
マルチステージ

Made in
Nippon



●特殊レンズ



シード 虹彩付ソフト
ユーソフト

●従来型コンタクトレンズ



ハードコンタクトレンズ
全6種7品



ソフトコンタクトレンズ
全3種

●オルソケラトロジーレンズ



ブレスオーコレクト

●シリコーンハイドロゲルレンズ



シード1daySilfa

参考資料:取扱商品

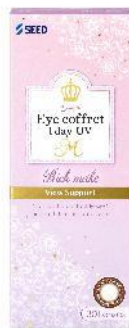
●サークルレンズ

単焦点



シード Eye coffret 1day UV M

スマホ眼用



シード Eye coffret 1day UV M
View Support

乱視用



シード Eye coffret 1day UV M
TORIC

遠近両用



シード Eye coffret 1day UV M
Multistage

●カラーレンズ

単焦点



ヒロインメイク 1day UV M

単焦点



ベルミー

乱視用



ベルミー TORIC

NEW

参考資料:取扱商品

●シリコンハイドロゲルレンズ

単焦点



シード AirGrade 1day UV
W-Moisture

単焦点



シード AirGrade 2week UV
W-Moisture

乱視用



シード AirGrade 1day UV
W-Moisture TORIC

乱視用



シード AirGrade 2week UV
W-Moisture TORIC

●シードFineFine UV plus

単焦点



シード 1dayFine UV plus

単焦点



シード 2weekFine UV plus

乱視用



シード 2weekFine UV plus TORIC

単焦点



シード MonthlyFine UV plus

コンタクトレンズケア事業

コンタクトレンズを快適にお使いいただくためのケア用品を各種提供しています



コレクトクリーン
オルソケラトロジーレンズ
酸素透過性
ハードコンタクトレンズ用
タンパク洗浄液



フォレストリーフ うるおいW
ソフトコンタクトレンズ用消毒剤



ピュアティモイスト
酸素透過性
ハードコンタクトレンズ用
酵素洗浄保存液



ジェルクリンW
酸素透過性ハード・
ソフトコンタクトレンズ用洗浄剤



参考資料:サステナビリティ（取組みの一例）



多様な人材の確保・定着

- 働きやすい職場づくり
 - ・奨学金返還支援制度の導入
 - ・福利厚生棟の設立
 - ・「えるぼし認定(2段階目)」の取得
 - ・男性育休取得促進(2025年度 取得率77.8%)
 - ・企業主導型保育園の運営
 - ・子育て休暇、家族介護休暇、病児保育料補助制度の策定
 - ・育児短時間勤務制度(法定水準を上回る小6までを対象)
- ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン
 - ・LGBTQ支援制度の整備



災害対策

- 自然災害、人災損害による被害の極少化への取組み
 - ・BCPのマニュアル化と恒常的な推進
 - ・災害時における一斉帰宅抑制の推進と備蓄品の拡充
 - ・鴻巣研究所における全体避難訓練の実施
- 「eye×防災」の啓発
 - ・災害に対する事前の備えとして、日頃から気をつけておきたい眼の防災に関する啓発を実施
- 災害時の帰宅困難者向け一時滞在施設として、文京区と「災害時における相互協力に関する協定書」を締結



地域・社会の課題解決に向けた取組み

- 行政との連携
- 「SEED Projects Of Road To Sports」の活動
 - ・スポーツ選手へのコンタクトレンズの提供
- 出前授業の実施
- 積極的な地域活動への参加
- SEEDこどものめ未来プロジェクトの立ち上げ
 - ・親子向け「目の健康」と「スポーツ体験」イベント実施



環境への取組み

- 環境マネジメントシステムの構築
- エネルギー利用環境負荷低減事業適応計画の認定取得
- 「シードエコロジーマーク」の策定
- サーキュラーエコノミーシステムの構築
 - ・BLUE SEED PROJECTによるブリスター回収・再資源化
- (株)メニコンとの共同配送の開始

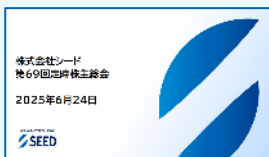


参考資料:当社に関する情報を公式ホームページやYouTubeで発信

当社HP



- ・決算説明会資料
- ・株主総会資料
- ・中期経営計画説明会資料
- ・IRレポート
- ・統合報告書
- ・有価証券報告書
- ・コーポレートガバナンス報告書 等



当社YouTubeチャンネル

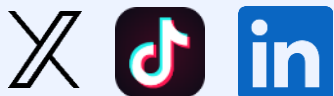


- ・決算説明会
- ・株主総会
- ・中期経営説明会
- ・その他IR情報 等



その他SNS公式アカウント

- ・TVCM
- ・製品説明動画
- ・決算説明会、株主総会、IRイベント
- ・IR動画
- ・CSR活動(イベントの告知等)
- ・啓発活動



【商品】

- ・シード1dayPure View Support
- ・シード Eye coffret 1day UV M
- ・ベルミー



その他

企業と個人株主・投資家をつなぐ



2022年6月20日(月)より、個人株主・投資家向けサービス「Sharebee」にてIRに関する情報・重要連絡をHPのIRサイトの掲載に加えて配信しております。

<https://sharebee.jp/>

参考資料:シードグループ

国内子会社

*株式会社シードアイサービス

横浜近視予防研究所株式会社

*株式会社オキュデバイセズ

株式会社シードファシリティサービス

海外子会社

*上海実瞳光学科技有限公司(中国)

*上海実瞳健康科技有限公司(中国)

*上海幻櫻商貿有限公司(中国)

*香港実瞳健康科技有限公司(香港)

*台灣實瞳股份有限公司(台湾)

*SEED CONTACTLENS ASIA PTE.LTD.(シンガポール)

*SEED CONTACT LENS VIET NAM CO, LTD.(ベトナム)

*SEED CONTACT LENS(M)SDN.BHD.(マレーシア)

*Wöhlk Contactlinsen GmbH (ドイツ)

*Sensimed SA(スイス)

*Contact Lens Precision Laboratories Ltd.(イギリス)

*Ultravision international Ltd.(イギリス)

*Scotlens Holdings Limited (イギリス)

*Scotlens Limited(イギリス)

連結範囲	追加	株式会社オキュデバイセズ
	除外	—

*:連結子会社

※2026年6月末現在

まだみぬ、世界は、美しい



本資料に関するお問い合わせ

株式会社シード 経営企画部

TEL 03-3813-1650

またはホームページお問い合わせフォーム

<https://www.seed.co.jp/contact/>

当資料の見込みに関しては、現時点において入手可能な情報及び当社の計画・戦略に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の経済情勢・業界動向等、様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

本資料の見通しや目標数値等に全面的に依存しての投資判断により生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。